

第6回へそサポ定例会報告

<内容>

- ① 認知症フォローアップ研修
講師：山口敏伸氏
(佐賀県若年性認知症支援センターコーディネーター)
- ② その他
次回日程確認等



進行:岸川氏

- ① 認知症の定義、原因疾患、2025年における認知症患者の動向、MCI等、知識として知っておいた方がよいことを、整理してわかりやすく説明して頂く。

- 認知症は病気であり、誰にでも起こりうることであること、認知症の種類により症状・薬も異なること、新薬は開発されているが、良くなる薬ではなく、早期発見早期服薬にて進行を遅らせるものであること等詳しく説明紹介して頂く。生活の仕方、暮らし方により、認知症は予防できるものであり、日頃の生活の中で工夫されていること等参加者の方々にも問いかけられ、「メモを取っている鍵の場所等決められたところに置いている・自分の引き出しがありそこに大事なものは入れている」「薬を飲んだことが確認できるよう、飲んだ薬の袋をとっている・携帯番号を覚えている」等、置き忘れ等無いように、皆さん自分なりに工夫をされておられる。そういった対策も認知症の予防になり、必要なことである事も説明される。



- 具体的な認知機能に配慮した対応、便利なグッズもあることが紹介される。ちょっとした工夫が生活のしやすさ、安心につながり、自分自身のため、またまわりに認知症の方がおられた時の適切な対応につながることで、さらにこういった知識があることで、“認知症”を理解し、決して特別なことではなく、誰にでも起こりうる病気であり、排除しないやさしい町づくりの必要性をユーモラスな語りも交え、説かれる。

- 参加者の皆さんからは、大変参考になった、今回はいろいろ考える場面もあり楽しかった等の感想が寄せられる。
- 65歳以上の高齢者の5人一人が2025年には認知症になると予測されているなか、決して、遠いところの話ではないこと、必要以上に不安がることなく、(認知症に)ならないための予防、そして早期発見・早期受診が必要である事、また誰もが安心して暮らし続けられるよう、正しい知識をもち、認知症になっても、どんな状態になっても支えあえるよう、そういった地域づくり、ささえあいの輪の必要性を感じ取っていただけたのではと思う。



次回定例会は、10月8日(火) AM10:00 公民館2F 研修室